

第27回基本政策部会・第51回宇宙安全保障部会合同部会
議事要旨

1 日 時

令和4年11月14日（月）10:00～12:00

2 場 所

中央合同庁舎4号館4階 共用第4特別会議室

3 出席者

(1) 委 員

（基本政策部会）

白坂部会長、石田委員、臼田委員、片岡委員、栗原委員、篠原委員、松井委員、南委員、山崎委員

（宇宙安全保障部会）

鈴木部会長、片岡部会長代理、石井満委員、遠藤委員、久保委員、白坂委員、新谷委員、名和委員

(2) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 石井理事

(3) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西事務局長、坂口審議官、滝澤参事官、加藤参事官

(4) 関係省庁

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 上田課長

(5) 説明者

株式会社 ispace 袴田代表取締役

4 議事要旨（○：意見等）

白坂委員、宇宙事務局、文部科学省および株式会社 ispace から資料1～3、参考資料1～2に基づいて説明が行われた。委員から、以下の意見があった。

<議題1 宇宙分野における民間イノベーションについて>

- 宇宙の利用は今後も進んでいくが、ユーザーにどのように使えるかアイデアを提供することや、ユーザーのニーズを掘り起こすことが重要。
- 衛星利用に当たって、我が国の衛星を使うことのメリットを示していくことが必要。
- 衛星の利用拡大を進めるに当たって、官民の役割分担を議論していくことが必要。また、アンカーテナンシー等でしっかりと政府が資金を入れていくべき。
- 宇宙産業に民間資金を入れるに当たって、投資家が技術的な面で評価できることが必要。

また、企業側においては、経営管理のリソースの強化が必要。最終的なユーザーとなる市場がどこにあるのか示すこと、また、国際的な市場を取り込む力があると投資が得られるのではないか。

- IoTなどで得られた情報もたくさん存在しているので、それらのデータと宇宙分野でかけ合わせて検討を行うべき。

<議題2 宇宙基本計画工程表の改訂について>

- 工程表は先見性を高めるために重要な資料であるので、具体的に取組内容や年限を記載するようにして欲しい。
- JAXAのイノベーションパートナーシップのような新しい取組を行う場合は、技術だけではなく社会実装を行うための取組自体の数を増やすことが重要。

<議題3 イプシロン6号機について>

- イプシロンSロケットについて、イプシロンロケット6号機の打上げ失敗もあったが、安全性を確保した上で、遅れずに打上げができるよう取り組んで欲しい。

以上